

FMU 男女共同参画通信

第26号 September 2020
福島県立医科大学男女共同参画支援室

非常に暑かった夏から解放され、ようやく秋の訪れを感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度上半期8月迄はコロナ禍から多くのイベントが見送られましたが、今月から順次開催されることになりました。下半期は10月の男女共同参画月間からスタートいたしますが、上半期に続き新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、Webによるオンラインセミナーと会場開催とのハイブリッド方式を中心にイベントを開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

FMU カフェ ハイブリッドで開催される

今月14日(月)に今年度初めての「FMU カフェ」が開催されました。コロナウイルス感染対策の面から、会場開催とWebによるオンラインセミナーのハイブリッド開催となりましたが、コロナ禍にもかかわらず注目度が高く43名の教職員大学院生、学部学生が会場及びWebから参加されました。講師に病態制御薬理医学講座主任教授 下村健寿先生をお迎えし、「コロナ時代に考える小松左京『復活の日』」と題して、小松左京と親交のあった講師に『復活の日』に込められたパンデミック時代への小松左京のメッセージを解説していただきました。



講演では、小松左京の代表作である「復活の日」や「さよならジュピター」に秘められた作者の様々な思いを、作者との直接の交流がある下村先生ならではの雰囲気でお話いただきました。

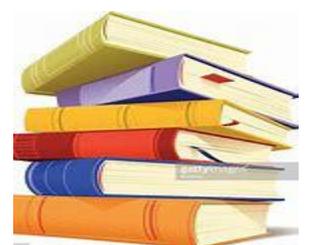
FMU スキルアップセミナーをWebにて開催

今月23日(水)に今年度初の「FMU スキルアップセミナー」が開催されました。本セミナーもコロナウイルス感染対策の面から、Webによるオンラインセミナーとなり、100名の教職員、大学院生、学部学生が参加されました。

講師には昨年に続き、世界最大級の抄録・引用文献データベースであるScopusを提供されているエルゼビア社の日本法人であるエルゼビア・ジャパン株式会社のコンサルタント井上淳氏をお迎えしました。

講演では、Scopusでの検索結果の並び替えや分析、検索結果を文献情報に保存・管理するソフトであるMendeleyへ直接エクスポートする方法や適切な投稿ジャーナルの選択方法など日々の研究において活用できるノウハウを多数伝授していただきました。

講演後、参加者の皆さんにはエルゼビア・ジャパン様のご厚意により、講演の録画データが配付されました。



10月は 男女共同参画月間です

「男女共同参画行動計画」の取り組みの一環として、4月と10月を「男女共同参画推進月間」とし、男女共同参画の意識の浸透を図るような取り組みを集中的に行うこととしております。

今年はコロナ感染予防対策のため、例年開催している講演会は見送りとなりましたが、まず、職場内での推進員(所属長)による職場研修会を開催しましょう。議論する場ではなく、それぞれの教職員が思っていること、考えていることを引き出し、所属の問題や課題を共有することが大切です。

また、男女共同参画マニュアルの読み合わせや「男女共同参画マニュアル」に掲載している「チェックシート」を用いて一人ひとり自己点検を実施して頂くなどして、男女共同参画の理解を深めていただきます。この機会に全員参加で男女共同参画についての意識の浸透を図っていきましょう。





本支援室では、ライフイベント（妊娠・出産・育児・介護等）を抱えた教員の研究支援を行っています。今回は、研究支援を受けられている教員の方々にお話を伺いました。

**研究支援制度(実験補助)には
本当に助けられました**
基礎病理学講座 助教 東 淳子 先生

私は基礎医学生物学の研究をしています。子供が二人、実家は遠方、保育所と学童保育の送迎時刻に支配され、毎日が時間との闘いです。そんな中、研究支援制度の実験補助を申し込んだところ、派遣されてきたのが支援員Hさんでした。一見大人しい人ですが、働き出したら三面六臂、材料と手順を伝えたら、あとは勝手にしかも正確に作業をしてくれるという有り難さ。おかげで私は並行して別の実験ができるようになり、一日のうちにこなすことができる実験量が大幅に増えた上に、データのクオリティも向上しました。

また、授業・実習、論文の査読、研究費申請の締め切り等々で、自分自身で実験をする余裕がない時や、忙しい時に限って子供が熱発したとしても、Hさんのおかげで実験が遅滞・中断することなく進めることができ、着実に成果をあげることができました。本当に有難うございます。

研修支援 ありがとうございます
会津医療センター 漢方医学講座
助教 加用 拓己 先生

男女共同参画室の皆様にはいつも研究支援を頂きまして有難うございます。私は2年前に関西から家族とともに会津若松へやって参りました。現在の職場は非常にやりがいのある臨床現場で、研究についても観察研究や臨床試験など多くの研究に携わる機会を頂きました。「よし！これから臨床も研究もどんどんやっていくぞ！」と意気込んだのも束の間。いざ働き始めてみると、勤務時間の大部分は臨床業務で終わってしまい（これは私の能力不足が主な要因なのですが）、夜間や週末は0歳と2歳の息子との格闘の日々。「どうしよう、このままでは研究がまったく進まない…。」焦りと不安が募っておりましたが、研究支援制度の存在を知り、ご支援いただくようになって以降、データがどんどんと整理され、研究も順調に進むようになりました。本当に感謝しております。今後とも宜しくお願い致します。

今年度の研究員支援制度は、上半期（2020年4月～9月）に14名の教員の方々に支援を行い、下半期（10月～2021年3月）には17名の教員の方々に支援する予定です。

◇女性休養室からのお知らせ◇

2018年6月に附属病院内に女性休養室が開設され、搾乳や女性特有の症状による体調不良時の休養にご利用いただいております。

今年度の利用状況は、毎月15名から20名と増加傾向にあります。必要な際はご遠慮なくご利用下さい。

【場 所】 本学附属病院 みらい棟2階 スタッフルーム内

【設置数】 3室

【利用時間】 土日・祝日・年末年始を除く平日の9時～17時

【設 備】 ソファ、テーブル、タオルケット

なお、使用の際、入り口ドアに「使用中」の札を表示し、各自で内側から施錠してください。

【問 合 せ】 男女共同参画支援室 内線 2807

Information

<< FMU キャリアサポート交流会 >>

■日 時 令和2年9月30日（水）
16:40～18:00

■場 所 8号館3階 S311

■講師1 『劣等生だった僕らが人を育てる立場にいるという奇怪』

看護学部小児・精神看護学部門

助教 田村 達弥先生

きぼう棟7階東主任看護技師

小林 浩之先生

■講師2 『Girls, let's
be ambitious !』

病態制御薬理医学講座

准教授 前島 裕子先生

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

E-mail : gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel : 024-547-1657 (内線 : 2807) / HP : <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>
男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ / コーディネーター 橋本 にしき